

## 花めぐり 湿っちめぐり 2017

雨竜町 佐々木 純一

### 伊達は春早く 有珠善光寺と谷藤川

4月30日の有珠善光寺自然公園。有珠山噴火の大岩がゴロゴロ、石割ザクラでお花見だ。コジマエンレイソウが隔離分布して、草陰や木陰で特長的な真紅の花弁を見つけると嬉しくなる(図1)。やおら芝生に這いつく皆の衆、ヒナスミレの撮影に悪戦苦闘中。ホソバナアマナ、ノビル、フラサバソウと普段は見かけぬ花たちと出会う。観察会二次会は豊浦の山中で春植物を、ニリンソウ、エゾイチゲ、エゾトリカブトの若葉でロシアブルーレット、違いが分かるかな。

5月12日、再び伊達へ、谷藤川のユキワリコザクラのピンクの小桜に酔う(図2)。函館亀田半島と伊達と根室半島部の3地域で、太平洋側の東西に広く隔離分布している。薄桃花、濃色花、裂片が大きい花と変異が多い分楽しみが増す。林道の両側の岩壁に根差し、陽光が当る南向きの岩で力強く、半日陰の苔むす岩でしっとりと咲いている。陰陽乾湿の環境に適応して可憐に咲くコザクラウオッチ第1弾。

### 利尻は暴風・厳寒の島 礼文は遠く…

木の葉のように降りたHAC、利尻空港の強風は駐機しても揺れている6月2日。発達した低気圧で礼文行きフェリーは3日も全便欠航、利尻に2日間足止めなら爆裂火口跡の湿地群を巡るしかない。南浜湿原はミズゴケマットにミズバショウ、ヤ

マドリゼンマイ、カラフトイソツツジ、矮性アカエゾマツが混生する特異な植生にイワツツジ、モウセンゴケ、ミツバオウレンなどとホロムイイチゴとツルコケモモの群生は壮観(図3)。沼浦オタマリ沼は30分ほどの周回散策路、沼畔はヨシ群落にサワギキョウ、カキツバタの若葉と、この若葉はリシリアザミだろう。駐車場と売店があり、利尻山を背に良い景観なのだろうが…。種富湿原は1日目に探せず、センターで聞くと「種富を訪ねるとは」と感心された。名残りの標識とササ繁茂の中でヤチスゲとヤラメスゲの泥土にミズゴケやホロムイイチゴが僅か、ホロムイイチゴのヤチボウズの上で利尻唯一のエゾゴゼンタチバナが生育中、吹き曝しの湿原は寒かった。姫沼は利尻山の山懐、樹林が強風を防ぎ一周20分が温かく感じる。両日とも利尻山は雲の中、風速20m、気温6度の暴風雨、厳寒の湿地巡りに凍えた。おぼろに浮かぶ島影は礼文なのか、コザクラウオッチ第2弾、レブンコザクラは儂かった。

### 静狩とニセコの湿地 快晴と濃霧

快晴の6月28日の静狩湿原、両端に入口があり北側から。真赤なモウセンゴケ、トキソウ、アギスミレ、コバノトンボソウ、池塘にヒツジグサ、ジュンサイ、カキツバタ、泥土にコタヌキモにヤチスギランと湿原植生真っ盛り(図4)。グルッと回って南側に、先客が2人、静狩を堪能してサア